

全港湾第96回定期全国大会



歩み

2025. 10. 4
NO. 689 号全港湾関西地方
阪神支部
大阪市港区築港
1-12-2706-6574-8424
078-303-0800

9月11日から12日にかけて第96回全港湾定期全国大会が豊橋シーパレスに於いて開催されました。本部役員17名、代議員88名、特別代議員63名、傍聴24名で計192名が参加しました。

政治闘争が重要に

開会あいさつで鈴木龍一副委員長は「全国で集中豪雨や台風が猛威を振るい自然災害が多発している。被災された方がたに対しては1日も早い復旧、復興を願う」と前置きされ「日本は今、軍拡路線に進み、あれだけの事故を起こしながら原発を未だに推進している。そして物価も上がり続けていく。そんな情勢の中でどう組合員の生活を守っていくのが重要だ」とし「一方で衆議院及び参議院選挙では与党を少数に追い込み石破首相も退陣させた。これは国民の抗議の意思が選挙結果に表れており、私たちの運動の成果とも認識している。これから政治闘争が大事になる」と情勢を話した後「今大会では昨年の運動方針をさらに強化し団結して運動しよう」と呼びかけました。

議長団には四国地方の竹田英弘氏、九州地方の松本大輔氏が選出され、議事が進められました。

80周年に向けて



鈴木 誠一委員長

代表あいさつで鈴木誠一委員長は「異常気象とも言える暑さの中、港湾物流を担い国民の生活を支えている港湾労働者に対し心から敬意を表したい」と称え、戦後80年となる今日を振り返り「日本は食料自給率も低くエネルギー資源も乏しい。国際情勢に抗い武力をもって対抗すれば真つ先に港湾施設が狙われることになってしまふ。戦争は犯罪だ」という世界の共通認識を持ち、平和外交へ舵を切るべきだ」と政治課題について述べた後「来年で全港湾は80周年を迎える。更なる方針強化を重ね全港湾らしい運動にこれからも全力で取り組もう」と訴えかけました。

魅力ある港湾の実現へ



全国港湾 玉田書記長

来賓あいさつで全国港湾玉田書記長は①産別最低賃金の交渉について日港協が独占禁止法に抵触するとして交渉を拒否し続けていること②議員懇で指摘した問題を国会で取り上げてもらったこと③認可料金の復活を目指し、大幅賃上げにつなげること等について詳しく解説されました。

最後に玉田書記長は「港湾産業の健全な営業活動を行うには平和な日本、そして民主主義の徹底が必須であり、労使での共通認識にしなければならぬ。私自身も全港湾の組合員とともに奮闘したい」と魅力ある港湾の実現のための決意を語られました。

25年度の運動方針を補強

続いて松永中央書記長、諸見中央執行委員から第1議題から第5議題がそれぞれ提案され、①予算減少対策としての収入増②中央港湾団交への傍聴について③全国ストの6大港と地方港の相違④5回にわたる全国スト実施についての総括⑤ライフラインに係る貨物の見解⑥トラック労働者の改善基準告示について⑦バス労働者の運動と取り組み⑧自然災害における防災への取り組み⑨猛暑作業に於いて手当か、それとも対策を

求めるか⑩組織拡大・強化の取り組み等々、代議員、特別代議員を含め45名からの発言があり、建設的な質疑討論となりました。

その後、全ての議案が満場一致で採択され、25年度の運動方針が確立されました。

また、特別決議と大会宣言も全体の拍手をもって確認されました。

開会あいさつで橋崎副委員長は「日本は戦後から80年が経ち、我われの先輩たちの運動もあり平和を守ってきた。労働運動の一環である平和運動を継続し、若い世代に戦後90年、100年とバトンをつないでいこう」と平和運動の重要性を説き、賃上げについては「我われは本場に交渉力で賃上げを勝ち取れたかを再考してほしい。中小企業は弱い立場にあるし、適正料金収受の運動強化は必須で、今年9月から来年の3月までが料金交渉強化月間である。そこも注視しなければならぬ」とし「定期大会は新しい運動方針を決定する場であるがそれを含め交流も大事だ。交流を通じて団結してこそひとつの要求が勝ち取れると確信している」と力説しました。

最後に鈴木委員長が力強い団結カンパニー三唱で散会しました。

執行委員 坪井 雄志

全国大会発言

久保田書記長



ストライキを背景とした25春闘は、一定の成果があったと理解している。26春闘では労働者側の後方支援として中央港湾団交の傍聴参加を復活させてほしい。独禁法の問題では業側の対応に信用が無く、誠実とは言えない。

井ノ元副委員長



労働組合として団体要請、抗議宣伝行動を含め毅然とした態度で臨んでもらいたい。

全港湾の政治闘争および選挙闘争について、権力に屈せず政党助成金も受け取らない歴史ある左派政党とも共闘し、幅広い野党共闘で正常な三権分立を後押しする運動を進めてもらいたい。

また、大会参加の青年部組員には全港湾の運動と政治闘争の歴史、政党の歴史を学習してもらいたい。

松本副委員長



トラックの荷待ち時間や改善基準告示による休憩時間の確保で違法駐車の影響が出ている問題で、高速道路のサービスエリアの駐車スペース拡充については要請していただきNEXCOなどが4000台相当の駐車スペース拡大につながったが、改善にまでは至っていない。

また一般道では違法駐車状態となり、検挙されるケースが増え、駐車スペースも拡充していただきたい。ドライバーの熱中症対策について荷主の理解もあつて、アイドリング可能として対策している現場も増えてきているが、まだまだそうではないところが根強く残っている。蓄電式クレーン助成金を活用する運動を進めてもらいたい。

関西地本第81回定期大会

平和で格差のない社会へ

国民のための政治の実現を目指し
団結の力でがんばろう！

8月27～28日、大阪港湾労働者福祉センターにて全港湾関西地本第81回定期大会が開催されました。

阪神支部からは地本執行部6名、代議員27名、傍聴8名が参加しました。



河野副委員長

はじめに、河野副委員長が開会のあいさつに立ち「暑い日が続いており、熱中症の危険や尋常ではない集中豪雨があり、命の危険を及ぼすだけではなく経済的な損失は計り知れない。

一方、燃料高騰でのガソリン補助金は出費を抑え、物流コスト削減の期待がされる中、排気ガスでの二酸化炭素の排出を増やし気候変動対策には矛盾しており、日本社会の構造を変えないといけない」とし、選挙について「物価高、実質賃金の低下等による不安定な国民生活。低下する国民関連予算、増え続ける軍事費などに国民の声が反映し、新

えて欲しいと願う結果であり、自民党政権への痛烈な審判であつたと思う」とし「労働組合は労働条件の改正や賃金の引き上げ、経済闘争が中心だが、本質を正すには政治の課題を無視するわけにはいかず、平和で格差のない社会を目指し、

国民目線に立った政治を実現させよう。今大会では総括、来年度の運動方針確立に向けて皆さんから意見アイデアを出してもらいたい」と呼びかけました。その後、議長に大阪支部の南野一樹氏、阪神支部の入江友規氏の両名が選出され議事がはじまりました。



畠山委員長

畠山委員長から代表あいさつがあり「石破政権は都議会選挙に敗れ、参議院選挙でも与党過半数を取れず惨敗したが職責を果たすと言いつつ続投宣言。アメリカのトランプ大統領には相互関税を突き付けられ、石破政権の否定はもとより信頼が

失墜した結果であろう。昨年、政治資金問題が大きな争点となり大物現職議員が落選した。参議院選挙では後半から外国人問題が一つの争点となり、新興政党のキャッチコピーが差別や治安悪化、社会への不満へと仕向けられ異様な空気が漂い、明らかに政党支持の変化をもたらした」とし「困窮を極める若者を中心に将来に希望を持たない閉塞感が大きな反発を生み出した」と情勢について話しました。

続けて資料を基にトラック適正化2法や、下請法、ドライバーの長時間労働などの説明があり、終盤を迎えた万博にもふれ「万博終了後の撤収作業やIR工事が進み、関係車両の増大を懸念している。ヤードに關しても期間延長オーブンが実施されるが、年度末までの延長を粘り強く要請していく」とし「個々の建設的な意見をいただき有意義な大会にしたい」と話しました。

来賓には大港労協より小嶋議長、中央本部より松永書記長が来られました。小嶋議長からは「万博終了が迫っており、思ったより渋滞やトラブルはなかった。しかし、これから撤去やIR工事の車両等の渋滞が起こり得る。大港労協としても注視していく。酷暑

は続くが、しっかりと熱中症対策などをしてもらいたい」とあいさつがありました。



松永中央書記長

松永書記長からは25春闘と一時金の総括や、26春闘に向けての説明があり「関西地本全体で活発な意見を出して中央本部にあげてもらいたい」とあいさつしました。

討議は全体で11件、阪神支部からは3名の代議員の発言がありました。樋口書記長より提案された第1号議案から第4号議案まですべて全体の拍手で採択されました。

そして大会宣言案と「戦争のできる国づくりに反対し、平和を希求する政治への転換を求める特別決議案」と「大阪万博に付随する統合型リゾート（IR）構想に対する反対決議案」が採択されました。

閉会のあいさつでは確氷副委員長から「9月より1200品目を超える食品も値上がりし、米の値段も下がり



たたかう労働組合！団結してガンバロー！

ず物価高騰に歯止めがかからない状況が続いている。春闘をたたかったが物価高を補える結果は得られなかった。また、労働組合の組織率が減少しており、財政も厳しくなるのも否めない。しかし、私たちはたたく労働組合だ。団結の力で頑張ろう」と力強く呼びかけました。

最後に畠山委員長の団結ガンバローで2日間の大会が終了しました。

教宣部 遠藤 侑助

全国港湾労働組合連合会第18回定期大会

日港協による行政訴訟に対し労側支持の判決！ 秋年末・26春闘へ向けて

9月17・18日、ホテルシーパレスリゾート豊橋にて全国港湾第18回定期大会が開催されました。

を含む方針の決定に向けた参加者の積極的な議論を求めました。

議長団に検数労連の畑崎

開会の挨拶で松永委員長代行が独禁法や年末年始の例外荷役の問題に「この先

どうか動くか、何をやっていくのか」問いかけ、それら

貴史氏、大港労組の榎尾暢英氏が選出され以後の議事進行を務めました。

資格審査では7組合15地区港湾から定数123名の



全国7組合15地区から多数の代議員らが参加した

代議員が参加していることが報告・確認されました。



開会の挨拶で竹内委員長は25春闘の経過について触れ「適正料金の收受は労使が共に取り組まなければならない」とし、日港協が独禁法を盾に港湾産別最賃等への回答拒否は不誠実団交であるとした労働審判に対する行政訴訟で労働審判を支持する勝利判決が出たことで、早速9月16日に中央港湾団交を申し入れたことを報告しました。

その上で「継続課題は山積しているが、火急のものと時間をかけて取り組むものに分けて問題にあたる」とし「諸課題を実現するために団結と連携で行動や行動権の行使で社会的に示さなければならぬ。(判決を受けて) 秋闘は例年より大変になるが、団結を切に願う。共に頑張ろう」と呼びかけました。

来賓による挨拶等の後、玉田書記長により第一号議案、第二号議案、25秋年末闘争方針の案が一括で提案されました。

提案に対し、参加代議員から25春闘のストライキや年末年始の例外荷役等について多数の質疑・意見が出されました。

長 阪神支部からは久保田書記長が「独禁法に関する裁判の判決について、我われ労働組合が実質勝利した状態である。約

10年間、時間の止まっていた港湾最賃の問題も光が見えてきた。ただ、日港協のこれまでの対応を見ると判決を素直に受け入れる信用がない。港湾を魅力ない産業にしたのは業側日港協である。これ以上控訴させないためにも抗議行動、ストライキも視野に入れたたたかいをお願いしたい」とし、また春闘について「25春闘では5次のストライキを決定し、たたかう労働組合の力を発揮した春闘が展開された。この勢いを26春闘にも確実に繋げないといけない。中央港湾団交への交渉委員以外の参加を是非とも具体化してほしい。交渉には労使対等の原則があるとはいえ、労側はやはり弱い立場にある。業側の横暴に労働組合の数の力を見せつけ抑え込むためにも後方支

援をさせてもらいたい。参加者の拡大の具体化をきつちり図ってもらいたい」と意見しました。

名古屋支部日興サービス分会の上條分会長は指定事業体問題の終結のための運動を執行部に求めました。

総括答弁で竹内委員長はあらためて大会発言等を受けたうえで考えを述べ、9月30日には日港協と折衝

阪神支部労働職対トラック4メーカー・ディーラー懇談会

ドライバーの安全を守り負担軽減への取り組み

阪神支部労働者職業病対策部会の取り組みのひとつであるトラック4メーカー（日野自動車・三菱ふそう・いすゞ自動車・UDトラックス）との懇談会を8月22日に行い、労働対委員5名が参加しました。

事前に分会からの意見と前回行われた労働対学習会分科会から出た意見を集約して5項目に絞り、各メーカーに改善、標準装備、自動運転の進捗状況など意見交換しました。

①パーキングブレーキのかけ忘れ防止機能の現状について

パーキングブレーキをかけた状態でもドアを開けると警告ブザーが鳴る対策

を行うこと。年末年始の問題は9月中旬に片を付けることを参加者に向けて力強く約束しました。

その後各議案の採択と25年度の役員体制が確認され、大会宣言や特別決議の案が拍手によって採択され、閉会挨拶の後、竹内委員長は閉会挨拶で、分会長の団結ガンバローで閉会しました。

副委員長 道下 拓也

は既に4メーカーが実施しています。さらに自動でパーキングブレーキに入るシステムまで進んでいるメーカーもありました。

②雨天時のサイドミラーの視認対策（ミラーワイパー設置等）について

4メーカーはミラー内の熱線により水滴、くもり止め対策を行っています。1メーカーは、ミラーワイパーがオプション設定で取り付けられるようになっていますが、現状のミラー熱線では十分な視界が確保できないため、改善するように要請しました。

③仮眠用ベッドスペースの空調吹き出し口設置について

現状では前方からのエアコンをベッドスペースに送るシステムは1メーカーだけありましたが、その装備はオプション設定のため、標準装備にしてほしいと要望してきました。

④シャーシ接続側の電気コンセントの耐久性について

現状で4メーカーとも同じコンセントでプラスチック素材になっているため、スチールなどの耐久性の高い素材やソケットから抜けない、電気信号（ウインカー・ブレーキ）の誤作動のないものにしてほしいと要望してきました。

⑤自動運転の進捗状況について

自動運転の進捗は前方車両の追跡走行などあり、実証実験ではドライバーが同乗し、手放し運転までは出ていると聞きました。

昨年、国土交通省から安全装置が義務化され、前方衝突や巻き込み防止システムなどの標準化により事故は減少傾向にあります。しかし、まだまだドライバーの負担はあります。

今後も阪神支部労働者職業病対策部会は、安全問題の観点から引き続き懇談を行い、ドライバーの安全を守る活動に繋がっていきま

阪神支部労働対委員
上組分会 太田垣 光一

第21回神戸港湾ボウリング大会

30チーム90名の参加で
盛大に開催

個人・団体ともに3位入賞

8月5日、神戸六甲ボウルにおいて、第21回神戸港湾ボウリング大会が30チーム90名の参加で盛大に開催されました。

開会の挨拶にあたり山田副議長は「コロナ禍でなかなか開催することが出来ませんでした。6年ぶりの開催となりました。また、今夏は連日の酷暑続きであり、毎日の労働には大変厳しい夏になっています。本日はこの夏の暑さに負けずに白熱した戦いと各単組の交流を最後まで楽しんでいただきたい」と述べ、ゲームがスタートしました。

ゲームは2ゲーム、女性の方には1ゲームにつきハシデキヤップ30点をつけるという内容になりました。



松本副議長による始球式



個人3位に菱倉運輸 渡邊分会長



菱倉運輸分会チームが団体3位



単組ごとのレーンにはな
つていましたが大いに盛り
上がり、あつという間に2
ゲームを投げ切りゲームは
終了となりました。

表彰式では個人賞と団体
賞、上位3位までとし、個
人では全倉運の南氏が優

副委員長 松本 栄二

最後に山田副議長が「大
変、お疲れ様でした。大会
を今後も継続していきたい
ので来年の参加もよろしく
お願いします」と締めくく
り第21回神戸港湾ボウリン
グ大会が終了しました。

参加された組合員の皆
様、お疲れ様でした。

スポーツの秋、皆さんも
日ごろの運動不足解消にボ
ウリングに興じるのはどう
でしょうか。

知っていますか？

蛍光灯とLEDのお話

秋の夜長、照明を付け
る時間も長くなってきた
した。

蛍光灯は27年に製造等
が禁止されます。現在お
使いのものはそのまま使
えますが、LED照明へ
の切り替えが進む事にな
ります。

蛍光灯をLEDに変更
する際は「照明器具ごと
交換する」か「既設の照
明器具のままランプだけ
を交換する」か2通りの
方法があります。

ランプだけを交換する
場合、発煙・発火事故が
報告されており、注意が
必要です。

688号は残念ながら応募がありませんでした。

689号の締め切り日は10月24日（金）です。
ふるってご応募ください。

FAX：06-6572-0914